

急迫

新県政

5

「議員ご指摘のように、なかなか使われない場合は、県単独事業でやる、あるいは(激変緩和の)期間を延長する、あるいは重度重複以外の障害者も対象にするとかいうのも当然議論していかなくてはいけなくなると思います」

2月22日、県議会本会議の一般質問。小野寺慎一郎県議(公明)の再々質問に対し、松沢成文知事は制度見直しに含みを持たせる答弁をした。県在宅重度障害者等手当。支給対象者にして約13万人から約9千人、支給総額にして約43億円から約5億円へと大幅削減

する条例改正案は、2009年春の県議会で継続審査になった後、激変緩和(半額支給)を1年から2年に延長する修正を議会主導で加え、同年夏に可決・成立した。

県が掲げた見直しの理由は、障害者向けの在宅サービスや障害者雇用の進展などで、削減で浮いた財源を使い、代替的に障害者の地域生活支援施策を行うとしていた。

だが、10年度の手当削減額約19億円に対し、代替的施策の予算是約10億円。県が担当部局の推計値として示した16億円より4割近く減少してい

ます。11年度も同様。「2年目になつても、なぜ1年目とほぼ同額の施策しかできないのか」という質問に対し、知事は「単価

が進まなかつた補助事業があつたり、障害児の通学支援など実施主体である市町村が財源を確保で

引き上げたものの利用

額せざるを得なかつたも

のもある」。納得せず再

々質問にまで至つた結

果、冒頭の答弁が出たの

だった。

激変緩和を経て手当が打ち切りになる障害者は約12万人。両手が使えない人、歩けない人、全盲の人など、身体障害者手帳1級持持者らも打ち切

り対象だ。

相模原市に住む岡崎弘美さん(39)もその一人。

ゴスペルを中心で歌う全

盲の歌手だが、長引く景

気の低迷により、近年は

仕事が激減した。

現在は、病院ボランティアの母親(76)と2人暮

る12年度にどう向き合

るのかという重い課題は、

新知事に託された。

IIおわり

(この連載は、渋谷文彦、

香川直幹、松村祐介が担

障害者手当



④県知事として県議会本会議で最後の答弁に立つ松沢成文氏と、⑤知事選で初當選を果たした翌日に会見する黒岩祐治氏。大震災に伴う不安などが渦巻く中、重い課題が新知事に引き継がれる

どうなる削減の行方

美さん(39)もその一人。ゴスペルを中心で歌う全盲の歌手だが、長引く景気の低迷により、近年は仕事が激減した。現在は、病院ボランティアの母親(76)と2人暮る12年度にどう向き合うのかという重い課題は、新知事に託された。

県議会で見直しに含みを持たせた松沢知事はその1週間後、都知事選への出馬を表明(後に断念)した。半額支給もなくなる12年度にどう向き合うのかという重い課題は、新知事に託された。

IIおわり

新知事に託された。

IIおわり

新知事に託された。